

金賞

「キレイな作業服こそ、保全マンの誇り！」

株式会社デンソー 大安製作所

仙頭 知也

設備の修理依頼を受け、現場に向かう途中「相変わらず、お前の作業服は汚いな〜！」保全経験三年目になる後輩のケンヤ君に話すと「何言ってるんですか〜。保全の仕事は汚れるのが当たり前ですよ。勲章ですからね！」自信に満ち溢れた顔でケンヤ君の回答。私は少し笑い「キレイな作業服こそ保全員の誇りなんだぞ！」と強い口調で教えました。不満気に私を見つめるケンヤ君に懐かしき自分の原点を話すことにしました。

当時の私も三年目の保全員として、日々発生する設備の故障に追われる毎日でした。工場内には、職人技と思えるようなからくり機構で動く古い設備や、最新の機器を搭載したコンパクトな設備が二千台以上もあり、わからないこともたくさん。私の思いは「設備を一秒でも早く直す」ただ、それだけでした。その背景には「早く一人前の保全マンになりたい」という焦りがあったからです。そんなある日、生産課より「成形機の上下動作する時に、異音がするんだけど…」と修理依頼の連絡。「上下動作ってことは、またボールネジの異常か…」この不具合は一年前に修理したこともあり、一人でも大丈夫とホッとしていた時、先輩のマサルさんが「ヨシッ、俺も一緒に行くわ！」と声を掛けてくれました。「これは成長を見せるチャンスだ！」とすぐに作業を開始、セラミックの粉が大量に固着したボールネジを発見！周りに降り積もる白い雪のような粉を払い、劣化したグリスを軽く清掃した後に問題のボールネジを交換。作業を終えた私は、三時間も停止した設備をすぐに動かすよう生産課の作業員へ依頼しました。その時「ちょっと待て！真因追究はしたのか？」とマサルさんの大きな声が響きました。「いやっ、でもすぐに動かさないと。」そう言った私に「確かにボールネジの動きが悪い。だけどそれは現象だ。粉がどこから侵入し、固着したのか調査しないと同じことの繰返しだぞ！」その言葉に「また時間がある時でいいのに」と不満気な顔をしてしまいました。その後、マサルさんは真因である粉の侵入箇所を一目で発見し、防塵カバーを取り付けました。そして「設備を直すことは経験を積みばだれでもできる。再発防止をして「設備をよりよく維持していく」それが保全マンのあるべき姿なんじゃないか！」と教え

てくれました。設備を早く直すことしか頭になく、故障個所の確認、処置だけで満足して真因追究を怠った私の未熟さを痛感しました。粉とグリスで黒く染まった私の作業服を見て「作業の前にしっかり周りを清掃しろ。清掃することで原因がわかる。よく考えて作業しろ。腕を磨け。キレイな作業服は、保全員の誇りと思え！」厳しい口調の中には優しさが溢れ、私の中で「保全とは？保全マンの役割とは何か？」を考える貴重な体験となりました。

あの日から四年。現場に到着してすぐに成形機の清掃を始めようとする、そこに粉はありませんでした。「キレイですね。」驚くケンヤ君の後ろから「来る前に清掃しといたからな。」いつも汚れた作業服のケンヤ君を見ていた作業者が、汚れないようにと清掃をしてくれたのです。その作業者の優しさに応えるためにも、二度と故障させないと決断して「ここからは保全の仕事だ！」と原因のボールネジを交換しました。交換したボールネジを照明に当てると、薄っすらと内部に浮かび上がる白い粉。真因はシールの磨耗により、微量の粉が侵入していました。「再発防止できますか？」とケンヤ君に聞かれ、私は「高防塵シールに変更して再発防止しよう！」そう言い、シールを交換して修理を終えました。

事務所に戻る途中「あれっ、勲章を付けてないじゃないか？」と言う私に、自信に満ち溢れた表情でケンヤ君は「何言ってるんですか～。キレイな作業服こそ、保全マンの誇りですよ！」と一言。それから半年、いつもキレイな作業服とケンヤ君の保全マンとして成長した姿に、目を細めて眺めています。